日台稲門会　ニュースレター12月号（2021年12月18日発行）

日台稲門会会員・会友の皆様

日台稲門会ニュースレター12月号をお届けします。

1.　挨拶　（三村達　会長）

今年もあとわずかとなりました。
今年はコロナウイルスの影響で日台稲門会の活動も対面での活動がほとんどできず、活動といえばレターでの定期総会の開催、ビデオレターによる会長挨拶、オンラインによる座談会の開催とこのニュースレターの発行のみとなり、とても残念に思っております。来年はコロナウイルスもある程度抑えられ日台稲門会の活動も少しずつ復活していけることを願っています。
皆様良いお年をお迎えください。

2.　日台稲門会座談会

岩永康久名誉会長×**小椋和平**副会長　聞き手：**三村達**会長

近年まで商社マンとして台湾に駐在してきた岩永、小椋両氏。

岩永さんは台湾住友商事社長、小椋さんは台湾三菱商事社長でした。

その２人が商社マンとしての人生、台湾への思いと活動、そして日台関係への観点を語り合いました。その模様は、近く YouTube 動画で会員・会友向けに公開いたします。

このニュースレターでは、そのほんの一部をご紹介。詳細は、YouTube 動画での座談会をご覧ください――

＜総合商社での人生＞

岩永：学生時代は海外への憧れが強く、何とか行ってみたかった。アルバイトしたが、お金が足りずビザが下りない。それなら海外には会社のお金で行こうと住友商事に入社。鋼材貿易に配属され、ボルトナットの取引からスタート。小さな商品で不本意だったが意外に利益が出て、それをきっかけに 1977 年から 6 年間、米国駐在となり、日本からの輸入の仕事をするようになった。日米貿易摩擦のさなかだった。

・・・日米貿易摩擦のなかのアメリカ駐在から、やがて台湾へ。商社マンの岩永さんは台湾で何を見るのでしょうか。

小椋：高校時代から大学院まで早稲田に通い、理科系専攻だった。私も海外志向が強く英語が苦手にも拘わらず商社を志望し、三菱商事の重電輸出に配属された。当初は中東担当で発電所や大型プラント輸出をやっていた。三菱はイラク市場に強く、

1980 年にイラクのバグダッドへ長期出張中にイランイラク戦争が勃発した。（小椋さんの写真は、Global 適塾より引用）

・・・イランイラク戦争での経験を経て、商社マンとしての自覚が深まった小椋さん。やがて活躍の場は台湾へ移ります。

＜台湾と私＞

小椋：私は連続 15 年台湾に駐在したが、自分が台湾駐在となった理由は、多分、新幹線や発電所などの大型重電案件のポテンシャルが高かったためだと思われる。当時、日台貿易はアンバランスで、50 万ドル以上の入札には日本と韓国は参加できなかった。　最初の仕事は、この規制を撤廃させることだった。

・・・小椋さんが駐在した台湾は、変化のいちじるしい時期でした。小椋さんの目にはいったい何が映ったのでしょうか。

岩永：２回目の台湾駐在では、日本人会会長を２回、台北市工商会会長をさせていただいた。この日本人会や工商会の代表になることで、日本として民間の立場から、台湾の政府・財界のトップと話し合える関係が深まった。しかし、中国の目覚ましい発展を前にして、日本の政財界は「中国との関係強化は日本の国益であり、中国をへたに刺激しないように」との考え方が強く、台湾との話し合いには慎重だった。台湾の政財界も日本の事情をわかっているがゆえに、言いすぎないようにと、これまた慎重だった。この「双方の慎重」さは、非常にもどかしかった。

・・・発展する中国を脇に、揺れる日台関係。日本はどうすればいいのでしょう？その最前線にいた岩永さんはどう考えたでしょうか。

小椋：台湾では、台湾三菱商事社長としての業務のほか、日本人会、工商会の理事長業務も経験した。

なかでも日本人会理事長として初めての大相撲の台湾巡業への対応、日本工商会理事長として台湾政府に提言と要望からなる初めての白書の提出、経済部長と米欧工商会との交流会への日本工商会としての正式参加等、初の試みを実践した。

・・・台湾でさまざまに活動する小椋さん、やがて台湾三菱商事の 17 部門の部長は台湾人にして、日本人駐在員は半減させたとか。いったいなぜでしょうか。

岩永：駐在を終えて日本に帰ってきてからのことだが、縁あって早稲田大学で８年間、毎週岩永ゼミの講座を持つこととなった。そしてゼミの仕上げとして、毎年３泊４日で学生を台湾研修に連れていった。台湾では李登輝元総統との面会も組み入れた。３時間に及ぶ話し合いは学生には強く印象に残ったようだ。

・・・駐在を終えても続く岩永さんの台湾との縁。小椋さんも、帰国後に台湾協会の理事長になりました。そして２人とも日台稲門会でも活躍しています。YouTube 動画では、その２人が、日台関係の現在と未来について語ります。

＜日台関係について＞

小椋：李登輝元総統をはじめ、台プラの王永慶さん、中国信託銀行の辜濂松さん、政治家の江丙坤さんなど、日本語世代のなかでも日台交流を支えた重鎮の方が第一線から退かれ、亡くなってしまったため、日本と台湾との関係は新たなステージを迎えている。新たに相互理解を深めることが大切となり、日台人材交流としての留学生や若者の育成が重要であると思う。

岩永：台湾に対する全世界的な評価が高まっている。しかし、台湾の将来はどうなのかと考えると、それを決定づけるのはアメリカであり、もう一方は中国だ。中国

といえば、英国のシンクタンク「ＣＥＢＲ」のレポートでは、2028年に中国がＧＤＰでアメリカを凌ぐという。

この米中の力関係が逆転するという見方は、学者による研究の結果かも知れないが、私はどうも信じがたい。

小椋：台湾海峡緊張の将来予測は難しいが、中国の狙いは無血統合にあると私は考えている。武力行使をもっての統一でないと思う。……中国は軍事威嚇によって国民の不安をどんどん増長させ、場合によっては軍の士気も挫いていくという心理戦を展開している。さらにメディアやＳＮＳを活用するなどしてフェイクニュースやサイバー攻撃で内部不安を煽り、台湾内部から切り崩しを図ると思われる。また、あらゆる手を尽くし政権交代を促すことも中国の狙いなのではないかと思う。そこで日本にできることは……

岩永：これまで台湾との経済関係では、日本から台湾に投資をするということが基本であったが、今回、ＴＳＭＣが熊本にソニーと合弁で工場を設立する。日本政府もこれに対して相当肩入れしている。……台湾と日本は、以前のように日本から一方的に台湾へということではなく、対等な双方向関係になってきている。これをより深めてゆく必要がある。時代は変わっているといえるだろう。

・・・岩永さんと小椋さんとは、長く台湾とともに歩んできた経験から、また商社マンとしての視点から、台湾をめぐるさまざまな状況を分析し、日本と台湾との未来について語ります。これからお届けする YouTube 動画の座談会にご期待ください。

3.　台湾からの便り　台北稲門会より（斎藤征二さん）

今月も台北稲門会の斎藤さんからの寄稿です。

■台湾の TPP 加盟への懸案

先般中国の TPP 加盟申請を追いかけるように台湾も TPP 加盟を申請したが
日本が台湾の加盟を援助するに当たって 1 つだけ懸案があります。
それは 2018 年 10 月 24 日に行われた住民投票です。
日本の福島県をはじめとする東日本大震災の放射能汚染地域、つまり福島県及びその周辺 4 県（茨城県、栃木県、群馬県、千葉県）からの農産品や食品の輸入禁止を続けることに同意するか否か。(提案：国民党)

　　賛成：779 万 1856 票　反対：223 万 1425 票　無効：75 万 6041 票

という結果でした。
もともとは 2011 年 3 月 15 日以降、福島、茨城、栃木、群馬、千葉の 5 県で生産、製造された食品の輸入を禁止したことが発端でありますが、台湾政府が愚かにもこの問題を住民投票に掛けたことです。住民投票で賛成された項目を住民投票投票無しで規制撤廃する方法に苦慮しているのです。もう一度住民投票をして輸入禁止の賛成が多かったら収拾がつかなくなります。
台北日本人工商会でも 10 月 8 日に台湾政府に対して次のような提言を行っております。
「日本産食品に対する輸入規制措置の見直し　科学的根拠に基づく規制撤廃の実現」と題し、「東日本大震災から既に 10 年が経過したが、台湾は依然として日本の被災地周辺 5 県からの食品の輸入を停止する措置を継続しているとともに、その他の都道府県 についても、産地証明や放射性物質検査証明を求めている。しかし、台湾政府が 2011 年 3 月 15 日から実施している日本産食品の輸入時検査や、2019 年 8 月 1 日に結果 が公表された日本食品のサンプリング調査においても、基準値を超えた商品は 1 件 も無く、衛生福利部食品薬物管理署の 2019 年度レポートでは、ストロンチウム 90 についても検出されなかったとしている。日本国内においても、継続的にモニタリング検査が行われ、基準値を超えた食品は市場に流通することは無く、輸出も行われていない。また、2018 年の公民投票にて日本産食品の輸入停止措置の継続 が成立したが、昨年 11 月に公民投票から 2 年が経過したため、現在は見直しが可能 となっている。今年 5 月にはシンガポールが規制を撤廃し、10 年間規制緩和をしていないのは台 湾と韓国のみとなった。こうした中、台湾が撤廃することは、良好な日台関係を 内外に強くアピールすることにも繋がり、大きな意義がある。また、規制の妥当性を科学的根拠に基づいて検証する姿勢は、CPTPP 等他国との協定への加盟を議 論する際にも有利になるものと考える」と。

また「台湾の有力経済団体、中華民国工商協進会の林伯豊理事長は 10 月 25 日、台湾は環太平洋連携協定（ＴＰＰ）加入に向け、日本の支持を得るべきとの考えを示した。福島県産食品などの輸入再開も検討すべきだ」とした。
さて台湾政府はこの問題をどう解決するでしょうか。しばらく見守りましょう。

4.　経済ニュース（劉彦甫　記者）

今月も劉彦甫さん（WTSA 出身で現在東洋経済新報社記者）の署名記事を紹介します。

■永守重信「理想と夢なくしては成しとげられない」

日本電産創業者が説く生き方・経営・運のつかみ方

武政秀明:東洋経済オンライン編集部長 ／ 劉 彦甫:東洋経済記者（12/7 東洋経済）

創業から半世紀で売上高を 1 兆 6000 億円以上にした日本電産の永守重信氏の企業哲学について取り上げています。

https://toyokeizai.net/articles/-/473878

■EV 化で加速する「電池巨額投資」の熱狂とジレンマ

トヨタも参戦、米国が電池工場ラッシュの舞台

（木皮 透庸　横山 隼也　劉 彦甫　奥田 貫　並木 厚憲 ）（11/15 東洋経済）

EV 化には慎重とみられたトヨタも、世界的な「電池争奪戦」の中で、巨額の投資を決定した。その状況を取り上げています。

https://toyokeizai.net/articles/-/468512

劉記者の記事一覧　下記サイトを参照
https://toyokeizai.net/list/author/%E5%8A%89+%E5%BD%A6%E7%94%AB

5. 最近の台湾関連ニュース

■　習氏が狙う「制御可能な紛争」（E・ルトワック氏）

中国は台湾を脅しつつも本気で戦争しようとは思っていない。習主席は戦争経験がないこと、制御可能な紛争で勝ちたい、台湾の背後にいる実践経験豊富な米の戦闘能力は予測不能で暴力的だと考え、現状の中国では対抗できないと考えている。本音は、台湾国民党政権の復活を狙って台湾内部から崩壊させたい。日本は台湾にとどまらず、中国が狙っている近隣諸国への関心を深めよ。(12/10 産経)

■　アメリカ、初の民主サミット　中露での人権尊重など協議

９日、オンライン形式でバイデン大統領主催の初の民主主義サミットが２日間の予定で開催された。110 カ国参加だが、権威主義的傾向を持つ国（中・露・北朝鮮・トルコ・エジプト・イラン・ミャンマー・サウジ・エジプト・ハンガリー）は招待されなかった。(12/10 産経)

■　日台与党が経済安保協議を月内に検討（12/6 産経）

■　中国の台湾侵攻は恐ろしい結果をもたらす

米ブリンケン国務長官は、３日ロイター通信とのインタビューで、中国の台湾侵攻は恐ろしい結果をもたらすと習近平政権を牽制した。(12/5 産経)

■　安倍元首相、「台湾有事は日米同盟の有事」と

安倍元首相は、１日、台湾の国策研究院文教基金会のシンポジウムで「中国による台湾への武力侵攻は必ず日本の国土に対する重大な危険を引き起こす。台湾有事は日本有事であり、日米同盟の有事でもある」と講演。(12/3 産経)

■　米、1月主催の民主主義サミットに台湾を招待、中国反発

中国、ロシア、トルコ、ハンガリーは招待されなかった。(11/25 産経)

■　台湾侵攻「10年はない」、中国巡りキッシンジャー氏

親中派のキッシンジャー氏は、中国による台湾自治を弱める行為が軍事的と見なすか、政治的と見なすか、米国は難しい判断を迫られると対中強硬論に懸念を表明（11/24 毎日）

■旧日本軍輸送船戦没者の慰霊祭
バシー海峡を望む（ニュースレター１０月号で川村淳一さんが寄稿した）潮音寺（屏東県）で 21 日、戦没者慰霊祭が行われた。（11/24 毎日）

■五輪参加是非審議へ　台湾「選手拘束の危険性」
台湾独立志向野党の時代力量が、来年２月の北京冬季五輪で「台湾独立分子」として選手が拘束される危険があるという決議案（報告書？）を立法院に提出した。（11/24 産経）

【豪国防相、台湾有事の際、米支援と】（11/19 産経）

【リトアニア　国内に「台湾代表処」を正式に立ち上げ】（11/19 産経）

【「日本は一線越えてはならない」中国外相、台湾問題で林外相をけん制】（11/19 毎日）

【台湾で改良戦闘機部隊が発足 蔡氏「国防力強化」と誇示】（11/18 共同）

6. 注目の台湾関連新刊本紹介

■『な～るほど･ザ･台湾　』（再刊）（900 円）（送料・税込）

昔、こんな立派な月刊誌が無料でいいのかな、と思いましたが、長らく休刊していた「なーるほど・ザ・台湾」が３月より再刊されたそうです。最近号は、10 月号と 12 月号。22 年以降は年 6 回偶数月発行。早稲田大学でも読めるそうです。　https://naruhodo.com.tw/

編集後記

テレビを見ていたら、村上春樹ライブラリーが本部キャンパスの演劇博物館横の４号館に出来たと知った。３号館が高層化されたため、スペースが出来たのだろう。村上ライブラリーを見た後、杉原千畝記念碑に行った。シカゴの先物市場を作ったレオ・メラメド氏も彼のおかげで生き延びたと講演で話していたことを思い出した。そして三十数年ぶりに村上の本を読んだ。１Ｑ８４。最初は大沢在昌の「新宿」のように感じたが、次第に村上ワールドに引き込まれて、３冊一気に読んだ。懐かしかった。（橋）